

## 農業環境技術研究所・標本シリーズ3：中島秀雄コレクション

NIAES Collection Series 3: Hideo Nakajima Collection

吉松慎一<sup>\*</sup>・中谷至伸<sup>\*</sup>・安田耕司<sup>\*\*</sup>

Shin-ichi Yoshimatsu, Yukinobu Nakatani and Koji Yasuda

### はじめに

農業環境技術研究所の昆虫標本館には、既に「インベントリー No. 1, No. 3, No. 4, No. 5」において紹介したように多くの寄贈コレクションが所蔵されている。

今回は、標本シリーズ3として最近寄贈された中島秀雄コレクション（図1, 2）について紹介する。

### 中島秀雄博士の研究略歴

中島氏は、長年に渡り、横浜市の中高一貫校で教鞭を執られるかたわら、日本産フユシャクガ類（鱗翅目，シャクガ科）の分類学的，生態学的研究に取り組み、1997年に博士号を取得された。昆虫関連の研究を専門の仕事とはしないいわゆるアマチュア研究者の一人ではあるが、ガ類の分類や生態に造詣が深く、これまでプロ顔負けの研究を継続されてきている。

特にご専門とされるグループは、幼虫が「尺取り虫」として一般にもよく知られているシャクガ類である。中でも、博士論文のテーマであるフユシャクガは漢字では「冬尺蛾」と書き、冬期にだけ成虫が出現する昆虫の中では非常に珍しい生態を持つグループである。フユシャクガ類の雌成虫は翅が退化して飛翔できないため、有翅の雄が交尾に来るのを樹上でじっと待っている。そのようなことから、明かりで成虫を集める灯火採集では雌成虫を採集することはできない。研究開始当初は、雌成虫は未発見の種も多く、さらに翅の欠けたグループでは雌のみでは同定ができず、交尾ペアを採集し、同じ種の雌と雄の対応をつける必要があった。そこで、中島氏は夜間にランプを持って1本1本の樹木を上から下まで見て雌および交尾ペアを探して採集するという新たな採集法を考えた。この方法により、雌および交尾ペアの採集が可能になり、日周行動や配偶行動について調査するとともに未発見の雌成虫を明らかにし、新種の記載も含めた分類学的研究を実施してこられた。

### コレクションの特徴

平成11年以降、数度に分けて現在までに合計約28,200点が寄贈された。これまでに寄贈されたのはご本人が研究中のフユシャクガ類を除くガ類成虫標本の一部であるが、成虫標本以外にも、シャクガ科の幼虫や蛹のアルコール液浸標本も今後寄贈いただく予定である。

日本産の標本は科別に整理され、種まで同定されているものが多い。高山帯の蛾が多いのが特徴で、北・中央・南アルプス、飯豊山、富士山、箱根などの標本は産地毎に分けて別に保管されている。日本産の標本ではこれら以外に、ご自宅がある「横浜市鶴見の蛾」とご本人も調

<sup>\*</sup>農業環境インベントリーセンター，<sup>\*\*</sup>農業環境インベントリーセンター（現企画戦略室）

Natural Resources Inventory Center, Natural Resources Inventory Center (present: Research Planning Office)

インベントリー，第6号，p38-39（2007）

査された「小笠原諸島の蛾」がある。高山帯の生物は今後の気候変動により個体数の減少・絶滅の可能性も指摘されている貴重なものである。また、海洋島で固有種率が高く、生物多様性のホットスポットのひとつである小笠原諸島の標本も、外来生物の影響で生態系の変化が懸念される状況にあつて極めて貴重な資料であると言える。

海外産の標本としては、台湾とネパールのものがこれまで寄贈されている。同定ラベルが付いたものが多いが、属レベルまでの同定に留まっているものも結構多い。ここには、おそらく未記載種なども多く含まれているものと想定される



図1 中島秀雄コレクション：海外のシャクガ類

#### 問い合わせ先

農業環境インベントリーセンター 吉松慎一

電話：029-838-8348, FAX：029-838-8354, E-mail：yosimatu@niaes.affrc.go.jp